

## 7. 居住環境の向上のための事業等に関する事項

### [1] まちなか居住の推進の必要性

#### (1) 現状分析

市では、第2次計画の期間中も住環境整備の施策に取り組んできましたが、依然として、中心市街地の人口は減少を続け、平成16年から平成26年にかけて、771人減少しています（13.8%減）。また、人口の減少とともに、中心市街地では、市全体よりも少子高齢化が急速に進行しています。

その背景には、中心市街地において住宅の老朽化に伴い、その建て替えに際して、間口が狭く敷地面積が狭い等の制約の多い中心市街地よりも、敷地面積を十分に確保できる郊外への流出などが考えられます。

#### (2) 整備改善の必要性

中心市街地における定住人口の減少は、都市活動の停滞、地域コミュニティ・地域文化の衰退、公共施設の非効率な活用等を招いており、持続可能な中心市街地としていくために、中心市街地の定住人口の減少に歯止めをかけていくことが課題です。

まちなか居住を促進していくためには、誰もが安心安全で快適に生活し、行動できるようなユニバーサルデザインによるまちづくり等を推進し、まちなか居住環境の向上を進めるとともに、個人の住宅の建て替えや民間の集合住宅の建設を誘導・支援することなどが必要です。

こうしたことから、「まちなか居住の推進」に向け、主に、次の事業に取り組めます。

- ① まちなか居住環境の向上とまちなか居住を促進することによる、「住みたくなるまち」の実現に向けた事業
- ② すべての人にやさしいユニバーサルデザインによるまちづくりを推進することによる、「住みたくなるまち」の実現に向けた事業

## [2]事業の検討内容

事業名、内容及び実施時期	目標達成のための位置付け及び必要性
<p>■事業名 定住促進事業</p> <p>●事業内容 定住促進事業</p>	<p>本事業は、「住みたくなる まち」の実現をめざすもので、市を挙げて取り組んでいる事業です。</p> <p>中心市街地での起業や雇用の創出を支援し、そのための情報の発信に努めます。</p> <p>また、居住可能な空き家の利活用を推進し、定住促進を図るとともに、移住者やUターン者には、市内商店等で利用できる商品券を贈ります。</p>
<p>■事業名 まちなかユニバーサルデザイン事業 (再掲)</p> <p>●事業内容 すべての人にやさしいまちづくりの推進</p>	<p>本事業は、「住みたくなる まち」の実現をめざすもので、道路や歩道の段差の解消や拡幅をはじめ、施設のバリアフリー化、冬期間の除雪・排雪対策を行い、安全で快適に移動することができ、防災・防犯の面からも安全・安心な地域とすることができる中心市街地の創造をめざす事業です。</p> <p>また、中心市街地に関わる人たちが、今まで以上に思いやりやもてなしの心があふれるような取り組みを進め、すべての人にやさしいまちの創出をめざした事業です。</p>

## 8. 商業の活性化のための事業及び措置に関する事項

### [1] 商業の活性化の必要性

#### (1) 現状分析

当市の中心市街地には、昭和50年代から大規模小売店舗が立地し、平成10年ころまでは、中心市街地の商業機能は向上していました。しかしながら、平成10年ころから郊外に大型店が立地するとともに、平成11年にカネマン・ジャスコ大町店が中心市街地から郊外へ移転したことにより、中心市街地の商業機能は、極端に低下しました。

平成14年以降、中心市街地の商業機能の低下傾向に歯止めはかかっていません。

また、中心市街地全体に依然として空き店舗が多く存在しています。

#### (2) 整備改善の必要性

厳しい状況下において、街を訪れる人を増加させるための大町市の魅力の情報発信、当市の中心市街地の商店街や商店の独自性を発揮するための取り組み等を行っていくことが必要です。

また、増加している中心市街地の空き店舗を活用した取り組みも重要です。

こうしたことから、「商業の活性化」に向け、主に、次の事業に取り組みます。

- ① 当市の中心市街地の商店街・商店の独自性を発揮した「買物したくなる まち」の実現に向けた事業
- ② 空き店舗に新たな店舗の出店を促進する施策とともに、空き店舗を活用して、街を訪れる人の利便性の向上や回遊性を高める「訪れたくなる まち」の実現に向けた事業

## [2]事業の検討内容

事業名、内容及び実施時期	目標達成のための位置付け及び必要性
<p>■事業名 買い物支援事業</p> <p>●事業内容 プレミアム付商品券の発行 特典付地域通貨</p>	<p>本事業は、「買物したくなる まち」の実現をめざすもので、10%以上のプレミアム付き商品券を発行し、中心市街地の中小小売店での買い物を促進させる事業です。27年度は20%のプレミアム付き商品券を発行します。</p> <p>また、商品券は有償ボランティアの対価としても活用する等により商品券を普及させ、その事業の効果を高めます。</p> <p>そして、本事業の事業主体として、商品券を利用できる商店で協議会等の団体を設立し、将来的に中心市街地の商店全体の振興を図るような取り組みを行い、まちなかの賑わい創出につなげることを検討します。</p> <p>また、従来から取り組んでいる「ながの子育て家庭優遇パスポート」のサービスの充実を図り、中心市街地の中小小売店での買い物を促進するとともに、地域全体で子育て支援を推進します。</p>
<p>■事業名 空き店舗活用事業</p> <p>●事業内容 空き店舗に出店する事業者に対する店舗改装経費補助、家賃補助制度の有効な利用</p>	<p>本事業は、「買物したくなる まち」の実現をめざすもので、商店街に点在する空き店舗を意欲ある事業者に対して、店舗改装経費補助、家賃補助等を行うことにより、新規開業しやすい条件整備を行うとともに、安定的な経営を促進し、商店街に活気を呼び戻し、賑わいの創出につなげていく事業です。27年度は、市民や移住者を対象として、空き店舗を活用した創業サポート事業を行い、創業から経営までを含めた支援事業を展開します。</p>
<p>■事業名 ワンコイン・サービス・セール開催事業</p> <p>●事業内容 ワンコインで購入できるサービス・セールの実施</p>	<p>本事業は、「買物したくなるまち」をめざすもので、ワンコイン(100円、500円)のサービス・セールを開催し、まちなかを訪れた人の購買意欲を刺激し、店舗を活性化させることが期待されます。</p> <p>また、開催にあたっては、すでにイベントとして開催している、おおまちバルと連携します。</p>

事業名、内容及び実施時期	目標達成のための位置付け及び必要性
<p>■事業名 （仮称）大町らしさを活かした一店逸品運動推進事業</p> <p>●事業内容 大町らしい新商品の開発</p>	<p>本事業は、「買物したくなるまち」をめざすもので、商店街並びに個店の特色、個性を再認識し、利用者への情報発信を行うために、大町らしい新商品を開発する事業です。</p> <p>従前から行われている菓子などの商品開発しやすい食品関係を中心に、市民や観光客向けの商品の開発に取り組みながら、黒部ダムカレーや地サイダーと同様に徐々に運動を拡大していき、まちなかを訪れた人の購買意欲を刺激することで、店舗を活性化させることが期待されます。</p>
<p>■事業名 おおまち食文化活用事業</p> <p>●事業内容 大町らしい食文化を活用した商品の開発等</p>	<p>本事業は、「買物したくなるまち」をめざすもので、大町の水、大町黒豚、おざんざ、地酒、そば、和菓子等の大町独自の食文化の活用や情報発信を図り、多くの人たちをまちなかへ誘導し、店舗を活性化させる事業です。</p> <p>また、地域の伝統的郷土食として開発した「お祭り御膳」などを含めた「まちなかグルメ・マップ」を作成し、まちなかを訪れた人たちに配布することで、まちなかの回遊性を高め、賑わいを創出することが期待されます。</p>
<p>■事業名 「商人塾」、「おお！まちゼミな～る」等研修会、研究会、イベント開催事業</p> <p>●事業内容 もてなしの心あふれる商店づくりのための講座の開催</p>	<p>本事業は、「買物したくなるまち」をめざすもので、店主やスタッフ等を対象に、魅力ある店舗のあり方を研修するとともに、商店の専門的な知識技術などを消費者に伝えることで信頼関係を構築し、消費者ニーズと時代の変化に対応した商店づくりを目指す事業です。</p> <p>日曜日や休日の開店など営業時間の拡大や豊富な品揃えなどで商店の魅力を高め、消費者を商店街に呼び込み活性化することを関係者ととも考えます。</p>